

専門学校における若者のキャリア形成

東京大学大学院博士課程 植上一希

現在の青年期教育論における主題は、青年の職業的社会化の研究と言ってよいだろう。

この職業的社会化の研究に際しては、教育領域と職業領域を連結させてとらえることが前提となるが、より重要なのは、主題に対する視点の設定の仕方であると考ええる。

従来の青年期教育論においても、当時の教育領域や職業領域の状況をふまえた形での議論が積み重ねられてきたが、それらの基底にあり、そしていま、もう一度重視すべき視点は、勤労諸階層にとって望ましい職業的社会化のありようとは何か、そしてそのために必要な制度や内容とは何か、というものだと思われる。

この大きな課題への接近のための一つの題材として、専門学校教育とそこでの若者の学びやキャリア形成の検討を位置づけたい。そもそも、青年の職業的社会化の研究を進めるにあたっては、従来、「標準的」とみなされてきた正規の学校体系から企業への移行というキャリアコース、また、普通教育を中心とする教育内容等の再検討が不可欠となる。その際、正規の学校体系からは傍系とみなされてきた専門学校というキャリアコースが、専門学校に通う多くの「ノンエリート青年」にとっていかなるキャリアコースとして存在しているのか、また具体的な職業を対象とする教育内容を有する専門学校教育が、専門学校生のいかなるキャリア形成を支え、またいかなる人間形成作用を有しているのかという諸点の分析が、上記の課題への接近において有効であると考えている。

報告では、専門学校生へのインタビュー調査をもとに、彼らの進学要求、学びや陶冶の実態、卒業後のキャリア展開等について検討し、青年の職業的社会化にとっての専門学校教育の意義と課題について考察していく。